

# 拠点の教育活動

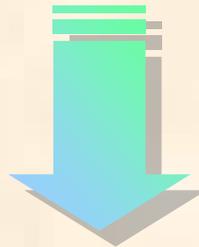
- 育成する人材 高度な実証分析能力を備えた専門家

## 拠点内での教育活動で

- ・大学などの研究者
- ・公的機関や企業の調査・研究職(リカレント教育を含む)

## 世界に開かれた教育拠点として

- ・海外の日本・アジア研究者



海外機関の院生や研究者が10名以上、国内他機関の院生や研究者が10名以上、留学生が15名以上滞在し、常時研究に参加する国際性豊かな拠点にする。(拠点形成計画調書)

# 教育関係スタッフ

拠点幹事会

教育担当幹事(佐藤宏、祝迫) +奥田、蓼沼 [教育統括G]

G-COE教務(長瀬)

経済学研究科事務室教務主担当(芹田)

大学院教育専門委員(祝迫、本田)

経済学研究科委員会

# 拠点内の教育体制

## 1. 大学院生への経済的支援とOJTを結びつける

COEフェロー14名      RA11名      TA 1名

### COEフェロー採用基準

- (1) 本拠点の趣旨に密接に関連するテーマあるいは方法によって研究を進めている者
- (2) COEフェロー採用期間中の研究計画が、本拠点の形成に貢献できるものであること。
- (3) 事業推進担当者の指導の下で、自主的に研究を行う能力を備えていると判断できること。

## 2. 大学院カリキュラムと拠点形成を結びつける

高度統計・実証分析カリキュラム（分野別の推奨カリキュラム）

## 3. 英語強化のための授業を開講する

①英語論文執筆の実践    ②日本の経済発展

ラルフ パプリツキ (Ralph-Michael Paprzycki) 氏

★①を受講した博士課程の院生を対象に、論文の英語チェックのサービスを開始する(詳細は拠点webサイト参照)。希望者は必ず履修登録すること。

# 拠点内の教育体制2

4. 内外の招聘講師を招いて多彩なレクチャーシリーズを開講する

Hitotsubashi lectures on choice, games, and welfareなど

5. 成果発信・就職支援のため若手研究者ホームページを開設 (細部を詰めている段階)

6. 院生を海外に派遣する

- ・公募により、現時点で4名の派遣を決定

7. その他

- ・学会報告支援 ポスタープリンター
- ・統計ソフト Stata E-views Matlab

# 世界に開かれた教育拠点

## 1. 国内外から若手研究者を受け入れる

**G-COE 研究生** 国内外の他機関に所属する院生・ポスドクをできるだけ柔軟に受け入れ

国内**2名**(うち**1名**は留学生) 海外 **2名**

**G-COE 研究員** ポスドク 7名(外国人3名)

## 2. 国内外の若手研究者が参加する研究集会を開催する (若手集中セミナー)

国際経済セミナー、 冬季マクロ経済学研究会

Hitotsubashi workshop on choice, games, and welfareなど

# 高度統計・実証分析カリキュラム

・ミクロ実証分析 マクロ経済分析 統計・計量経済学・ファイナンス  
国際経済学 地域経済分析 経済理論

## Web上の冒頭説明部分

高度統計・実証分析カリキュラムは、経済学研究科の授業科目の中から、本拠点がカバーする専攻領域ごとに、履修を推奨する科目を整理したモデルカリキュラムです。

(1) 発展科目とは、コア科目を履修した後に、各専攻領域における基幹科目として、系統的な履修を薦める科目群です。とくに下線を引いた科目は、コア科目に準ずる科目として履修を強く推奨します。

(2) 関連科目は、発展科目以外で各専攻領域に関連の深い科目群です。

(3) 【 】内は標準的な履修学年・学期を示します  
(M1は修士1年次, M2は修士2年次)。

## グローバルCOE 高度統計・実証分析カリキュラム

高度統計・実証分析カリキュラムは、経済学研究科の授業科目の中から、本拠点がカバーする専攻領域ごとに、履修を推奨する科目を整理したモデルカリキュラムです。

- (1) 発展科目とは、コア科目を履修した後、各専攻領域における基幹科目として、体系的な履修を薦める科目群です。とくに下線を引いた科目は、コア科目に準ずる科目として履修を強く推奨します。
- (2) 関連科目は、発展科目以外で各専攻領域に関連の深い科目群です。
- (3) 【 】内は標準的な履修学年・学期を示します（M1は修士1年次、M2は修士2年次）。

大学院生が本拠点の研究活動に参加したり、拠点から研究上の支援を受ける際には（たとえば COE フェローへの採用など）、本モデルカリキュラムに沿った履修状況が考慮されます。<sup>(注)</sup> 本拠点への参加を志す大学院生は、本モデルカリキュラムに沿った計画的な履修を心がけてください。

(注) ただし学年、博士後期課程進学・編入学の別を考慮、また平成 20 年度には、本カリキュラムは大学院に対する支援事業の選考条件とはしません。

### ミクロ実証分析を専攻する院生

#### コア科目

上級ミクロ経済学【M1/M2 夏学期】  
中級ミクロ経済学【M1 夏学期】  
上級マクロ経済学【M1/M2 夏学期】  
中級マクロ経済学【M1 夏学期】  
上級計量経済学 I【M1/M2 冬学期】  
中級計量経済学【M1 夏学期】

#### 発展科目

労働経済学 I  
労働経済学 II  
産業経済学 I  
産業経済学 II  
技術経済論 I  
技術経済論 II  
国際経済学 I  
国際経済学 II  
公共経済学  
応用ミクロ経済学  
比較統計システム論  
開発政策論  
比較経済発展論  
ワークショップ（産業・労働、日本・アジア経済、社会科学統計分析）

### マクロ経済分析を専攻する院生

#### コア科目

上級マクロ経済学【M1 夏学期】  
上級ミクロ経済学【M1 夏学期】  
上級計量経済学【M1 冬学期】

#### 発展科目

応用マクロ経済学  
金融経済論 I  
金融経済論 II  
ワークショップ（マクロ・金融、国際貿易・投資、社会科学統計分析）

#### 関連科目

ゲーム理論 I  
ゲーム理論 II  
理論経済学 I  
理論経済学 II  
応用ミクロ経済学  
確率・統計特論（確率過程入門）  
経済データ分析入門  
上級計量経済学 II  
計量経済学特論  
中級計量ファイナンス  
国際通貨論  
国際経済関係論  
国際経済学 I  
国際経済学 II  
産業経済学 I  
産業経済学 II  
労働経済学 I  
労働経済学 II  
国際経済開発論 I  
国際経済開発論 II  
開発政策論

### 統計・計量経済学・ファイナンスを専攻する院生

#### コア科目

上級ミクロ経済学  
上級マクロ経済学  
上級計量経済学 I  
中級ミクロ経済学  
中級マクロ経済学  
中級計量経済学

#### 発展科目